

研究成果一覧

<2004 年度>

図書

1. 根岸正光, 伊藤義人, 佐藤寛子, 安達淳, 早瀬均, Ann Okerson, Raym Crow, James Testa, 土屋俊『電子図書館と電子ジャーナル-学術コミュニケーションはどう変わるか』(情報学シリーズ 8, 国立情報学研究所監修)東京, 丸善, p.126-135.

論文・雑誌記事

1. 加藤信哉「電子ジャーナルのコンソーシアム利用が大学図書館の文献デリバリーへ及ぼす影響」『カレントアウェアネス』, No. 281, p.3-5(2004).
2. 土屋俊「学術情報流通の動向」『現代の図書館』 Vol.42, No.1, p.3-30.
3. 土屋俊「電子出版'03」『文藝年鑑』東京, 新潮社, pp.66-68(2004).
4. 土屋俊「COUNTER プロジェクト: 序論」『情報管理』 Vol.47 No.4, p.242-244(2004).

学会口頭発表・講演

1. 土屋俊「米国 SPARC 活動とその理念」(NII「学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト」2004年6月14日, 国立情報学研究所)
2. 土屋俊「日本における人文系テキスト処理黎明期の記憶」(インフォコムユーザー会, 2004年7月9日, 東京ドームホテル)
3. 土屋俊「研究図書館と電子図書館機能」(日本原子力研究所講演, 2004年7月20日, 日本原子力研究所)
4. Syun Tutiya, "Report from Japan Liaison," (presented to NCC meeting, UCLA, August 6, 2004)
5. 土屋俊「機関リポジトリの品質保証」(NII-IRP 中間報告会, 2004年9月7日, 国立情報学研究所)
6. 土屋俊「図書館協力の現状および課題」(私立大学図書館研修会, 2004年9月21日, 大正大学)
7. 土屋俊「インターネット世界の中の大学図書館の役割」(広島大学図書館職員研修会, 2004年9月28日, 広島大学)
8. 尾城孝一「学術コミュニケーションの変革期における大学図書館の取り組み-SPARC, オープンアクセス, 機関リポジトリ」(北海道大学附属図書館講演, 2004年10月1日, 北海道大学)
9. 栗山正光「電子図書館プロジェクトから機関レポジトリへ」(北海道大学附属図書館講演会, 2004年10月1日, 北海道大学)
10. 加藤信哉「電子情報資源の利用統計」(大阪市立大学都市創造学科ワークショップ, 2004年10月21日, 大阪市立大学)
11. Hiroshi Itsumura, Masamitsu Kuriyama, Koichi Ojio, Yukiko Sakai, Hiroya Takeuchi and Syun Tutiya, "Institutional repositories in Japanese national universities: historical and philosophical reflections," ("Institutional Repositories: The Next Stage," sponsored by SPARC and SPARC Europe, November 18, Washington D.C.).
12. 栗山正光「図書館からの情報発信-機関リポジトリとは」(埼玉大学図書館講演会, 2005年1月25日, 埼玉大学)
13. 土屋俊「なぜ大学は機関リポジトリをもたなければならないか」(北海道大学附属図書館講演)

会, 2005年2月1日, 北海道大学)

<2005年度>

図書

1. 逸村裕、竹内比呂也編『変わりゆく大学図書館』東京, 勁草書房, 232p.

竹内比呂也「大学図書館の現状と政策」(第1章, p.3-18), 土屋俊「現代日本の大学改革と大学図書館」(第2章, p.19-28), 逸村裕「図書館ポータル」(第5章, p.58-66)「地域連携」(第12章, p.153-162), 伊藤真理・杉田茂樹「メタデータ・データベースの構築」(第6章, p.67-85), 尾城孝一「機関リポジトリ」(第8章, p.101-114), 加藤信哉・中元誠「図書館コンソーシアム」(第13章, p.163-176), 佐藤義則「大学図書館の評価」(第15章, p.191-208)

論文・雑誌記事

1. 栗山正光「機関リポジトリ-大学図書館の新しい挑戦-」『図書館雑誌』Vol.99, No.11, p.777-779(2005).
2. 竹内比呂也「<視点>機関リポジトリとデジタル資料の保存」『情報管理』Vol.48, No. 7, p. 462-464(2005).
3. 栗山正光「総論: 学術情報リポジトリ」『情報の科学と技術』Vol.55, No.10, p.413-420(2005).
4. 栗山正光「動向レビュー デジタル資料保存リポジトリの動向」『カレントアウェアネス』No. 284, p. 12-15(2005)
5. 竹内比呂也「発展途上国における学術情報流通とオープンアクセス」『カレントアウェアネス』No. 285, p. 7-8(2005)
6. 加藤信哉「電子ジャーナルのビッグ・ディールが大学図書館へ及ぼす経済的影響について」『カレントアウェアネス』No. 287, p.10-13(2005).
7. 竹内比呂也「学術コミュニケーションの現状と改革-機関リポジトリとオープンアクセスを中心に」『こだま』No. 158, p.2-4(2006).
8. 米田奈穂, 武内八重子, 加藤晃一, 竹内比呂也, 土屋俊「ビッグ・ディール後の ILL: 千葉大学附属図書館亥鼻分館における調査」『大学図書館研究』No. 76, p.74-81(2006).

学会口頭発表・講演

1. Syun Tutiya, "Evolving E-journal Issues: A View from the moderator,"(ICOLC, Spring 2005 Meeting, April 13, 2005, Omni Parker House Hotel, Boston)
2. 栗山正光「ネットワーク情報資源の保存と OAIS 参照モデル」(大阪市立大学大学院創造都市研究科情報メディア環境研究分野ワークショップ, 2005年6月22日, 大阪市立大学)
3. 米田奈穂, 武内八重子, 加藤晃一, 竹内比呂也, 土屋俊「ビッグディール後の ILL: 千葉大学附属図書館亥鼻分館における調査」(第22回医学情報サービス研究大会愛知大会, 2005年7月9日, 愛知医科大学)
4. 園原麻里, 酒井由紀子「ILL データ分析からみた医学文献情報流通における私大医学図書館の役割」(第22回医学情報サービス研究大会愛知大会, 2005年7月9日, 愛知医科大学)
5. 土屋俊「オープンアクセス理念の歴史と展望-グローバルな課題とローカルな課題」(SPARC/JAPAN 連続セミナー「電子ジャーナル時代の学術情報流通を考える」第3回「オー

- プンアクセスの理念と実践-研究者・図書館・学術誌」, 2005年7月15日, 国立情報学研究所)
6. Hiroya Takeuchi, Yoshinori Sato, Masamitsu Kuriyama, Hiroshi Itsumura and Syun Tutiya, "Digital Libraries in Japan: A retrospect" (名古屋大学電子図書館国際会議, 2005年8月26日, 名古屋大学野依記念学術交流館)
 7. 土屋俊「千葉大学の知的アイデンティティとしての CURATOR」(千葉大学学術成果リポジトリ CURATOR 公開記念シンポジウム「機関リポジトリの可能性をさぐる-これからの大学における学術研究と情報発信-」, 2005年9月20日, 千葉大学)
 8. 竹内比呂也「図書館とデジタル・プリザーベーション」(千葉大学学術成果リポジトリ CURATOR 公開記念シンポジウム「機関リポジトリの可能性をさぐる-これからの大学における学術研究と情報発信-」 2005年9月20日, 千葉大学)
 9. 栗山正光, 竹内比呂也, 佐藤義則, 逸村裕, 加藤信哉, 松村多美子, 土屋俊「わが国の図書館政策に関する研究: 1990年代の動向を中心に」『日本図書館情報学会 三田図書館・情報学会合同研究大会発表要綱』 p. 65-68.
 10. 佐藤義則, 宮埜寿夫, 竹内比呂也, 土屋俊「ILL ログによる図書館関係構造の分析」『日本図書館情報学会、三田図書館・情報学会合同研究大会発表要綱』 p. 61-64.
 11. 竹内比呂也「ILL データの分析によって見えてくること: 1994年から2003年の NACSIS-ILL データの分析を中心に」(国公立大学図書館協力委員会平成17年度シンポジウム, 2005年10月25日, 慶応義塾大学)
 12. 加藤信哉「電子ジャーナルと図書館コンソーシアム」(大阪市立大学大学院・創造都市研究科ワークショップ, 2005年11月9日)
 13. 土屋俊「デジタルで変わった大学図書館の役割」(NPO 図書館の学校「21世紀第9回図書館セミナー」, 2005年11月10日, 日本青少年センター)
 14. Syun Tutiya, "University Libraries in Japan," (Meeting for the PA delegation, British Embassy, November 14, 2005)
 15. 土屋俊「学術情報基盤の再構築-国際的動向とキャンパス内対応の入り組んだ関係」(長崎大学附属図書館連続講演会「学術情報流通は今 - 現状と課題」第1回, 2005年11月15日, 長崎大学)
 16. 佐藤義則「機関リポジトリをめぐる海外の動向: 研究者との連携」(国立大学図書館協会平成17年度シンポジウム西地区, 2005年11月16日, 岡山大学)
 17. 土屋俊「大学における学術情報の歴史と未来」(京都大学図書館機構発足記念講演会, 2005年11月16日, 京都大学)
 18. Yoshinori Sato, "The COUNTER log analysis and the user surveys" (COUNTER プロジェクトに関するクロズドワークショップ, 2005年12月1日, 国立情報学研究所)
 19. 加藤信哉「日本のコンソーシアムでの COUNTER 関連の取組み」(COUNTER プロジェクトに関するクロズドワークショップ, 2005年12月1日, 国立情報学研究所)
 20. 土屋俊「これからの電子ジャーナルのグローバルな展開-商業出版・学会出版・オープンアクセス・恒久保存・著作権-」(図書館総合展フォーラム, 2005年12月1日, パシフィコ横浜)
 21. 土屋俊「現代日本の大学改革と学術情報」(日本大学出版部協会・電子部会講演, 2005年12月15日, 東京電機大学)
 22. 栗山正光「機関リポジトリの背景について: 研究者との連携」(国立大学図書館協会平成17年

度シンポジウム東地区, 2005年12月8日, 筑波大学)

23. 松村多美子「デジタル情報の潮流と図書館のあり方」(公開シンポジウム「デジタル時代における図書館の変革―課題と展望―」2006年1月26日, 国立国会図書館東京本館)
24. 土屋俊「電子図書館から電子ジャーナル、そして機関リポジトリを経て電子図書館へ」(大学図書館近畿イニシアティブ、大阪大学附属図書館講演会「電子図書館の現状と未来-機関リポジトリを見据えて-」2006年3月2日, 大阪大学附属図書館生命科学分館)
25. 加藤信哉「電子ジャーナルの利用と評価」(大阪市立大学大学院・創造都市研究科ワークショップ「デジタル情報社会における学術情報」, 2006年3月4日, 大阪市立大学)
26. 竹内比呂也「デジタル環境下における学術情報流通体制の変化」(大阪市立大学大学院・創造都市研究科ワークショップ「デジタル情報社会における学術情報」, 2006年3月4日, 大阪市立大学)
27. Syun Tutiya, "Japanese perspectives and activities,"(International Coalition of Library Consortia, Spring 2006 Meeting, March 27 2006, Hyatt Regency Philadelphia at Penn's Landing, Philadelphia, PA)

<2006年度>

論文・雑誌記事

1. 酒井由紀子、園原麻里「ILL統計データ分析からみた医学文献流通における私大医学図書館の役割」『医学図書館』Vol.53, No.3, p. 233-238(2006).
2. 栗山正光「フランスのオープン・アクセスと機関リポジトリ」『日仏図書館情報研究』No. 32, p. 17-25(2006).
3. 土屋俊「進展するIT化社会における出版の将来-大学図書館からの視点-」『梓会通信』第356号, p.1-8(2006).
4. 松村多美子「デジタル情報の潮流と図書館のあり方」『デジタル時代における図書館の変革―課題と展望―』東京, 国立国会図書館, 2006.9, p. 35-48.
5. 佐藤義則「近年のNACSIS-ILLにおける看護文献の需要と供給: ログ分析の結果から」『看護と情報』Vol. 14, p. 69-76(2007).
6. Syun Tutiya, Hiroya Takeuchi, Yoshinori Sato, Hiroshi Itsumura, "ILL/DD in Japan across the turn of the century: Basic findings about NACSIS-ILL from 1994 to 2005." *Progress in Informatics*, No. 4(印刷中)

学会口頭発表・講演

1. 土屋俊「進展するIT化社会における出版の将来」(日本書籍出版協会・知的財産権委員会講演, 2006年4月5日, 日本書籍出版協会)
2. 土屋俊「TEIはなぜ日本で知られていなかったか、知られていないか、知られるようになるか」(TEI Day in Japan, 2006年5月17日, 京都大学)
3. 土屋俊「音声対話コーパスのマークアップ」TEI Day in Japan, 2006年5月17日, 京都大学)
4. 土屋俊「インターネットによる学術情報流通の変容-知識は誰のためのものか-」(招待講演)(電子情報通信学会技術と社会・倫理研究会, 2006年5月19日, 千葉大学)
5. 加藤信哉「COUNTERについて」(国立情報学研究所, 2006年6月2日)

6. 土屋俊「学術情報コミュニケーションの動向」(平成18年度大学図書館職員長期研修講演、2006年7月5日、筑波大学)
7. 土屋俊「研究大学の存在証明としての機関リポジトリ」(葉山セミナー、2006年7月18日、総合研究大学院大学(葉山))
8. 土屋俊「進展するIT化社会における出版の将来」(出版梓会、2006年7月25日、出版クラブ)
9. 土屋俊「大学図書館に未来はあるか?」(平成18年度公立大学協会図書館協議会研修会講演、2006年7月27日、大阪府立大学学術交流会館)
10. 佐藤義則「研究者から見た機関リポジトリ：現状および今後の計画」(国立情報学研究所ポータル研修、2006年7月27日、国立情報学研究所；8月31日、名古屋大学附属図書館)
11. 竹内比呂也「学術コミュニケーションと機関リポジトリ」(神戸大学機関リポジトリ開設記念シンポジウム、2006年7月28日、神戸大学)
12. Syun Tutiya, "Lots of ambivalences: Journal publishing in Asia from Japanese library's viewpoint"(ICOLC Fall 2006: 8th European Meeting, October 11-14, 2006. Torre Rossa Park Hotel, Rome, Italy).
13. 竹内比呂也「機関リポジトリ入門」(大学図書館職員講習会、2006年10月20日(京都会場)、2006年11月17日(東京会場))
14. 土屋俊「情報センターと図書館との融合の行方」(第6回CAUA合同研究分科会、2006年10月20日、主婦会館)
15. 佐藤義則、竹内比呂也、土屋俊、逸村裕「ILLの需給状況の変化：NACSIS-ILLログデータ(1994-2005)の分析」『第54回日本図書館情報学会研究大会発表要綱』p.105-108.
16. 逸村裕、栗山正光、加藤信哉、佐藤義則、竹内比呂也、土屋俊「学術コミュニケーションのデジタル化による資源共有概念の変化」『第54回日本図書館情報学会研究大会発表要綱』p.109-112.
17. 土屋俊「機関リポジトリが大学に何をもたらすか」(歯学医学教育セミナー、2006年10月23日東京歯科大学)
18. 土屋俊「基調講演 インターネット・出版・図書館-大学における電子ジャーナルの活用を中心に」(全国図書館大会出版流通分科会(図書館と出版流通)、2006年10月27日、岡山県岡山市)
19. 土屋俊「最近の大学図書館間における相互貸借・文献複写の現状について」(国会図書館長と大学図書館長との懇談会、2006年11月7日、国立国会図書館本館)
20. 佐藤義則「研究・教育と学術機関リポジトリ：研究者の役割」(第2回東海地区 CSI 事業報告会：次世代学術コンテンツ基盤の共同構築「大学における学術機関リポジトリの構築に向けて」、2006年11月8日、名古屋大学附属図書館)
21. 竹内比呂也「日本における学術情報流通・サービスの課題-ILLデータの分析から見えてくること-」(医学図書館協会研究会・継続教育コース、2006年11月10日、東北大学)
22. 土屋俊「電子的学術情報流通における仲介者の役割：エージェント、コンソーシアム、データベース、そして図書館」(第8回図書館総合展フォーラム、2006年11月21日、パシフィコ横浜)
23. 土屋俊「NACSIS-ILLデータからみるわが国の高等教育における看護等関連文献整備の状況」、(看護文献提供環境に関する検討会、2006年11月30日、千葉大学看護学部)
24. 佐藤義則「大学図書館における情報探索環境提供の今日的課題：事例研究と考察」(平成18年度国公立大学図書館協力委員会シンポジウム「デジタルコンテンツの創造と発見」2006年12月7日、慶應義塾大学)

25. 佐藤義則「学術情報へのオープンアクセスとこれからの図書館」（日本図書館協会東海・北陸地区公共図書館研修会, 2006年12月13日）
26. 土屋俊「二股に分かれた長い尻尾: NACSIS-ILLにみる日本の学術と機関リポジトリ」（第2回DRFワークショップ「機関リポジトリをデザインする-設計とコンテンツ」, 2007年2月9日, 早稲田大学）